

連載

Turbo HAMLOGの

部屋

Turbo HAMLOG開発者
JGIMOU 浜田 博 *Hiroshi Hamada*

第22回 最終回

HAMLOGでFT8運用

Turbo HAMLOG/Win (以下、HAMLOGと略します) のオプション機能、JT-Get's について前号に続いて解説します。

JT-Get'sは、WSJT-XやJTDX (以下、WSJT-X等と略します) とHAMLOGを連携させる機能です。

[ファイル(F)]メニュー

図1は、JT-Get'sの[ファイル(F)]メニューを開いた状況です。

本誌2026年3月号で解説しましたように、ここでWSJT-X等がデコードしたALL.TXTファイルを開くわけですが、一度開いてしまえばその後は特に触れることはありません。

月替わりでもファイルを自動切り替える

例えば今が2026年4月である場合は、JTDXでは202604_ALL.txtというファイル、WSJT-Xでは2026-04-All.txtというファイルになります。

月が替わった場合でもJT-Get'sは新しい月のファイルを自動的に使用します。

ファイル履歴

図1の[ファイル(F)]メニューにはファイルを開いた履歴が表示されており、以前使用したALL.

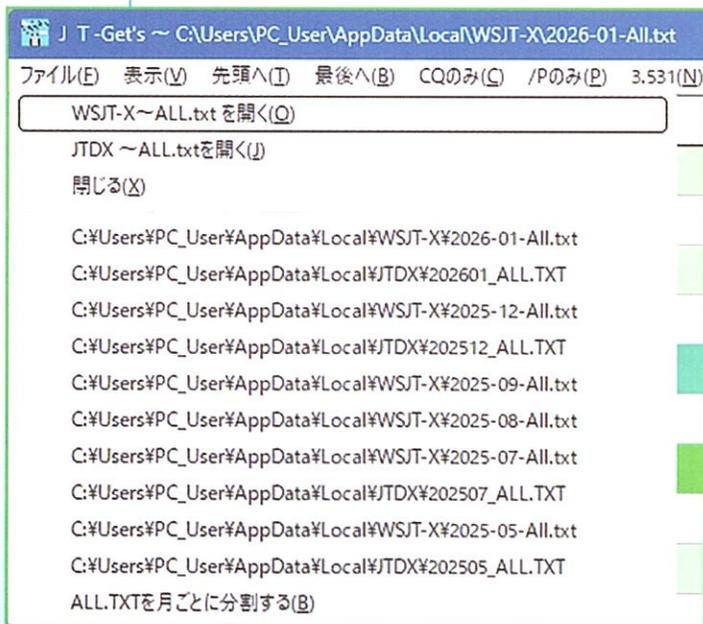


図1 JT-Get'sの[ファイル(F)]メニューを開いた状況

TXT ファイルを開き直して、内容を確認することができます。

[ALL.TXTを月ごとに分割する(B)]

図1の[ファイル(F)]メニューのいちばん下です。

WSJT-X の場合に有効となります。JTDXでは必要がなかったため、この機能は無効です。

WSJT-X の [保存] メニューの [Split ALL.TXT monthly] が選択されていない場合、ALL.TXT が巨大化してしまいます。

この機能を実行すると、例えば現在2026年5月であればALL.TXTは5月分だけとなり、前月分まではALL2603.txt, ALL2604.txtのように分割されます。

しかし、この機能を使わずWSJT-Xの[保存]メニューの[Split ALL.TXT monthly]を選択し、WSJT-X側で「ALL.TXTを月ごとに分割する」設定にしておくことをお勧めします。

WSJT-X等のフォルダについて

ALL.TXTファイルは、次のフォルダに存在します。

JT-Get'sの[ファイル(F)]メニューから最新のファイルを開いてください。

WSJT-Xの場合

C:\Users\ユーザー名
\AppData\Local\WSJT-X

JTDXの場合

C:\Users\ユーザー名
\AppData\Local\JTDX

[表示(V)]メニュー

図2は、JT-Get'sの[表示(V)]メニューを開いた状況です。上から順に解説します。

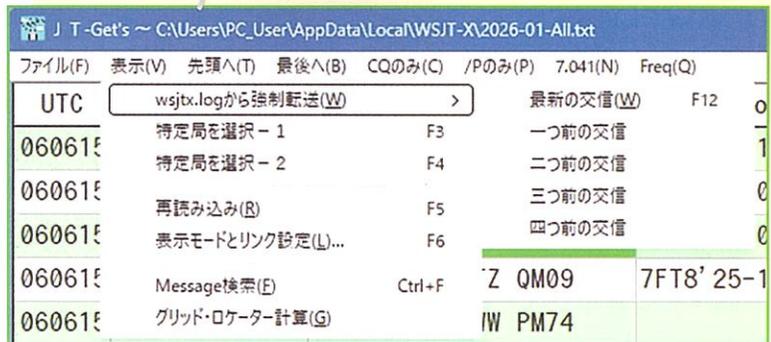


図2 JT-Get'sの[表示(V)]メニューを開いた状況。サブメニューも開いている

[wsjtx.logから強制転送(W)]

サブメニューに分かれています。

wsjtx.logファイルは、WSJT-X等による交信記録が保存されているQSOデータです。

[最新の交信(W)]

サブメニューの[最新の交信(W)]で、WSJT-X等のwsjtx.logファイルに記録されている最新の交信内容を、強制的に入力ウィンドウに転送します。

HAMLOGの起動を忘れてQSOしてしまった場合を想定しています。

F12キーを押すだけでもOKです。

このF12キーは、環境設定の[キー割当]タブにある[QSOデータの登録]のキーと連動します。

[一つ前の交信]~[四つ前の交信]

[一つ前の交信]から[四つ前の交信]までありますので、HAMLOGの起動を忘れてQSOしてしまった場合でも、WSJT-X等による直近の5件までの交信データを入力ウィンドウに転送することができます。

[特定局を選択-1]

JT-Get's上の選択されている行位置と同じコールサインの行のUTC, dB/DT/Freq欄を水色で表示します。

F3キーを押すだけでもOKです。

7041kHzや7074kHzなどをモニターしていると、あっという間にスクロールして見えなくなってしまうので、コールしたい局が目立つように

色を付けておく機能です。

Shift キーを押しながらクリックすると解除されます。

【特定局を選択-2】

上記と同様で、紫色で表示します。

F4 キーを押すだけでも OK です。

図3は、JF1MXQ 局が移動運用しているので、コールしようと思って F4 キーを押して目立つようにした状況です。

【再読み込み (R)】

ALL.TXT ファイルを再読み込みします。

F5 キーを押すだけでも OK です。

【表示モードとリンク設定 (L)】

本誌 2026 年 3 月号で解説した JT-Get's の基本的な設定項目です。

F6 キーを押すだけでも表示されます。

【Message 検索 (F)】

Ctrl + F キーを押しても同様です。

Message 欄を部分文字列やワイルドカードで検索します。

図4は、"RVW" という部分文字列で検索している状況です。

[↑検索] ボタンをクリック、または Enter キーを押すたびに上方向へ検索します。

[↓検索] ボタンをクリック、または Shift + Enter キーを押すたびに下方向へ検索します。

この検索機能を表示している間は、ALL.TXT ファイルの読み込みを停止しています。

【グリッド・ロケータ計算 (G)】

グーグルマップ上の緯度経度からグリッド・ロケータを計算して表示します。

UTC	dB/DI/Freq	Message	Before	User
062845	-10 -0.1 1302	CQ JM6EKY PM51	7FT8(25/10/23)	hQSL/W
062845	-2 -0.1 2103	CQ JF1MXQ/P QM06	7FT8(26/01/22)	hQSL/V
062845	-7 -0.1 963	JR1TPI JA6BSW -08	7FT8(25/02/27)	hQSL
062845	-20 0.2 1824	<JA8GBN> JP6SRV/6 RR73	7FT8(25/11/21)	hQSL/V
062915	12 -0.1 2753	JR0UBE JN1CDX R-05		hQSL
062915	0 0.0 2316	J03CHX/P JH9ATW PM75	7FT8' 25-09-13	
062915	8 -0.2 1606	J03KWI JR1TPI 73	7FT8(26/01/18)	hQSL/V
062915	2 0.4 905	J03CHX/P JP1PXR PM95	7FT8(25/11/26)	hQSL
062915	15 -0.1 1064	JA1FRG JR1EYS PM96	7FT8(25/09/16)	hQSL
062915	12 -0.1 409	JA9MAT JH3IVO 73	7FT8(26/01/18)	hQSL/V
062915	3 -0.0 1420	JR1DTD JA9FNY R-14	7FT8(25/10/16)	hQSL
062915	3 -0.1 2706	CQ JR4BXB PM64	7FT8(26/01/14)	hQSL
062915	-12 -0.1 1302	CQ JM6EKY PM51	7FT8(25/10/23)	hQSL/W
062915	17 0.1 2005	JE6EAC JE1XUL R-13	7FT8(25/02/05)	hQSL
062915	-3 -0.2 345	J11XSE JR8INK -12	7FT8(26/01/18)	hQSL
062915	8 -0.1 2214	JH1RAT JJ2TFF R-04	7FT8' 26-01-22	hQSL/W
062915	-4 0.2 1555	JR0GAS J03LTH/P R-04		user
062915	-9 -0.1 2103	JK1RMB JF1MXQ/P -02	7FT8(26/01/22)	hQSL/V
062915	-8 -0.1 1205	J03CHX/P JA9CYD 73	7FT8(25/02/05)	hQSL

図3 【表示 (V)】メニューの【特定局を選択-2】をクリックした状況。JF1MXQ 局が紫色に選択されている

UTC	dB/DI/Freq	Message	
062	1 1238	JR7PGL JR0UBE PM96	7FT8
062	1 1825	<JP6SRV/6> JA1FRG PM95	7FT8
062	0 1141	CQ JG5VFK PM74	7FT8
062	1 1725	<JP6SRV/6> JF6RVW -01	7FT8
062	1 2192	J03LTH/P JF3KBX PM74	7FT8
062	2 1945	CHX/9 C2906	
062	1 2865	JR7PGL JA6SUY RR73	7FT8

図4 【表示 (V)】メニューの【Message 検索 (F)】をクリックした状況。Message 欄から "RVW" という部分文字列で検索している

図5は、グーグルマップ上の右クリックメニューです。1行目の緯度経度の部分をクリックすると、緯度経度情報がコピーされます。

続いて、図2 (p.153) の【表示 (V)】メニューから【グリッド・ロケータ計算 (G)】をクリックします。

図6が計算結果です。

この機能は、FT8で移動運用する場合を想定

していますが、スマートフォンで現在地のグリッド・ロケータを表示するアプリ(MyACTやMyQTH)を使ったほうが便利ですね、hi.

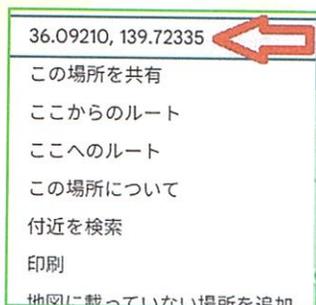
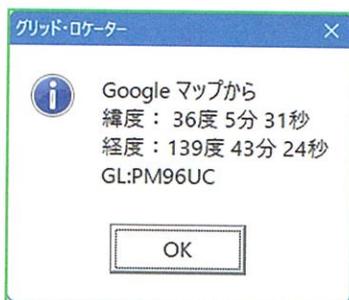


図5
グーグルマップ上の任意の地点で右クリックして表示されたメニュー。緯度経度をクリックするとコピーされる

図6
[表示(V)]メニューの[グリッド・ロケータ計算(G)]をクリックした状況



メニューバー上の その他の便利機能

[表示(V)]メニューの右側のメニューについてです。

[先頭へ(T)] [最後へ(B)]

JT-Get'sの表示の先頭や最後へジャンプします。

[CQのみ(C)] ⇒ [CQ(C)]

CQを出している局のみの表示とします。

図7は、ここをクリックしてCQを出している局だけの表示にした状況です。Message欄が水色や緑色に表示されている局です。

メニューの[CQのみ(C)]は、[CQ(C)]に変わっており、も

う一度クリックすると元に戻ります。

[/Pのみ(P)] ⇒ [/P(C)]

移動局のみの表示とします。

ここをクリックすると、コールサインに/Pや/7などを付けた移動運用の局のみの表示となります。

図8(p.156)は、ここをクリックして移動運用している局だけの表示にした状況です。

メニューの[/Pのみ(P)]は、[/P(C)]に変わっており、もう一度クリックすると元に戻ります。

[Band(N)] ⇒ [7.041(N)]

Before欄の表示を変更します。

図9(p.156)のメニューに[Band(N)]があります。ここをクリックするたびにBefore欄の表示が次のように3段階で切り替わります。

メニューが[Band(N)]と 表示されているとき

図9のように、Message欄に表示している局との過去の交信のバンド・モード状況がBefore欄に表示されます。

図9のBefore欄は、[表示モードとリンク設定]の[モード指定]を空欄にして同一バンド同一モードの重複表示がない状態で表示させたものです。

UTC	dB/Dt/Freq	Message	Before	User
072915	4 0.3 681	CQ JP1PXR PM95	7FT8 144FT8	hQSL
072915	-7 0.1 774	CQ JK7MIF QM09	7FT8	hQSL
072930	3 -0.1 452	CQ JA1HHN PM95	7FT8	hQSL
072945	-2 -0.0 1950	CQ JF8FZR QN03	7FT8	hQSL
072945	3 -0.5 392	CQ JK1MRG PM96	7FT8	hQSL
072945	20 -0.1 724	CQ JA20DB PM94	7FT8	hQSL
072945	11 -0.0 2561	CQ JA6GVF PM53		user/V
072945	3 0.3 681	CQ JP1PXR PM95	7FT8 144FT8	hQSL
072945	-3 -0.1 1302	CQ JM6EKY PM51	7FT8	hQSL/W
072945	-8 0.1 774	CQ JK7MIF QM09	7FT8	hQSL
073015	-3 -0.0 1950	CQ JF8FZR QN03	7FT8	hQSL
073015	7 -0.5 391	CQ JK1MRG PM96	7FT8	hQSL
073015	3 -0.0 1554	CQ J03LTH/P PM74		user
073015	20 -0.1 724	CQ JA20DB PM94	7FT8	hQSL

図7 メニューバーの[CQのみ(C)]をクリックした状況。メニューは[CQ(C)]に変わり、CQを出している局のみの表示となる

UTC	dB/DT/Freq	Message	Before	User
061815	-13 1.0 1553	JH3DMQ J03LTH/P 73		user
061845	-6 -0.1 2103	CQ JF1MXQ/P QM06	7FT8	hQSL/V
061900	2 -0.2 1945	JR4BXB J03CHX/P R+11	7FT8	hQSL/W
061900	-16 -0.1 1100	CQ JM6M00/6	7FT8	hQSL/V
061915	-6 -0.1 2103	<JM6M00/6> JF1MXQ/P	7FT8	hQSL/V
061930	-1 -0.2 1945	JR4BXB J03CHX/P 73	7FT8	hQSL/W
061930	-5 -0.1 1100	JA0PBK <JM6M00/6> +12	7FT8	hQSL/V
062000	-13 -0.1 1100	<JA0PBK> JM6M00/6 RRR	7FT8	hQSL/V
062015	-4 -0.1 2103	CQ JF1MXQ/P QM06	7FT8	hQSL/V
062015	-21 0.1 1823	<JA4FDZ> JP6SRV/6 RR73	7FT8	hQSL/V
062045	-4 -0.1 2103	CQ JF1MXQ/P QM06	7FT8	hQSL/V
062045	-7 0.2 1555	CQ J03LTH/P PM74		user
062115	-2 -0.1 2103	JA5ICH JF1MXQ/P +04	7FT8	hQSL/V
062115	-6 0.2 1553	CQ J03LTH/P PM74		user
062145	2 -0.1 2103	JA5ICH JF1MXQ/P RR73	7FT8	hQSL/V
062145	-16 0.1 1553	JH4MGU J03LTH/P R+04		user
062215	-0 0.2 1553	JH4MGU J03LTH/P 73		user

図8 メニューバーの[/Pのみ(P)]をクリックした状況。メニューは[/P(P)]に変わり、移動運用している局のみの表示となる

UTC	dB/DT/Freq	Message	Before	User
072915	-8 1.1 1148	JA0CDC/P JA3TYB PM74	7FT8 7SSB 430SSB	hQSL/W
072915	-1 -0.1 1843	JA0RIC J01HMV R-08	7FT8 144FT8 144SSB 433FM	hQSL
072915	-2 -0.1 1340	JG1EKX JH6TSK PM51	7FT8 3.5FT8	hQSL
072915	-6 -0.1 857	J07EYK JE0HBT PM97	7FT8 3.5FT8 7SSB 144SSB 433FM	hQSL/V
072915	4 0.3 681	CQ JP1PXR PM95	7FT8 144FT8 144SSB 430FT8	hQSL
072915	8 -0.1 2461	J07EYK JH8CGU QN02	7FT8	hQSL
072915	-7 0.1 774	CQ JK7MIF QM09	7FT8	hQSL
072930	9 -0.1 1341	JH6TSK JG1EKX -14	7FT8	hQSL
072930	13 -0.1 2631	JR7WIS JA9E00 -02	7FT8	user
072930	-1 -0.1 919	<JA9SFE/2> JA2UIV PM84	7FT8 7SSB 144FT8 3.5FT8 3.5SSB 144SSB	hQSL
072930	-2 -0.1 2310	JH7KAG JK1XRT R-05	7FT8 144SSB 144FT8	hQSL
072930	13 0.2 2400	J03LTH/P JA0WMP 73	7FT8 7SSB 3.5FT8	hQSL/V
072930	19 -0.2 205	JA20DB JK1BMT PM95	7FT8 3.5FT8 144FT8 430FT8	hQSL
072930	-4 -0.1 858	JH8CGU J07EYK +18	7FT8 7SSB	hQSL

図9 メニューバーに[Band(N)]が表示されているときの状況で、Before欄には過去に交信したバンド・モードが表示されている

表示されている局との各バンドでの交信状況がわかります。

メニューが [7.041 (N)] のような表示のとき

[Band (N)] をクリックすると [7.041 (N)] のような表示に変わり、現在運用中のバンドにおける過去の交信状況が表示されます。

図10では、7MHz帯の国内FT8で運用中のため、メニューが [7.041 (N)] となっています。

図10のBefore欄は、現在運用中のバンドのみの表示で、QSL受領済みの局は7FT8(*)のように表示します。

(*)や(H)はQSL受領済みマーク文字で、HAMLOGのQSL欄3文字目です。

メニューが [7.041 (N)] のような表示のとき

メニューの [7.041 (N)] をもう一度クリックすると、現在運用中のバンドにおける過去の交信年月日が新しい順に表示されます。

図11では、3.5MHz帯の国内FT8で運用中のため、メニューが [3.531 (N)] となっています。

Before欄には、QSL受領済みの局が3.5FT8(26/01/21)のように表示され、未受領の局は3.5FT8'26-01-21のように表示されます。

直近の交信年月日と、QSL受領済みかどうかわかります。

メニューの [3.531 (N)] をもう一度クリックすると [Band (N)] に戻ります。

現在運用中のバンドは、ALL.TXTファイルの下のほうで判断しています。

同一の周波数で送信している局だけの表示となります。ここでいう周波数は、Hz単位です。

[Freq (Q)] ⇒ [773 (Q)]

ここをクリックすると、現在選択している行のdB/DT/Freq欄のFreqと一致する局のみの表示となります。

±5Hzの範囲を持たせてあります。もう一度

UTC	dB/DT/Freq	Message	Before	User
061800	2 0.9 1744	JM1QUJ JR0UBE R+04	7FT8(H) 7SSB(H)	hQSL/V
061800	6 -0.1 1396	<...> JE7NBR -25	7FT8(H) 7SSB(H)	hQSL/V
061800	7 0.9 1222	J03LTH/P JR7MIR -13	7FT8(H) 7SSB(*)	hQSL
061800	8 0.7 1107	JR3JGD JA0PBK 73	7FT8	user
061800	6 0.6 1606	JF1MXQ/P JR1TPI 73	7FT8(H) 7SSB(H)	hQSL/V
061800	17 0.7 2309	JE4VSC JF1SEK -13	7SSB(H) 7FT8(H)	hQSL
061800	4 0.7 1478	J03LTH/P JH3DMQ RR73	7FT8(H)	hQSL/V
061800	5 0.7 791	CQ JH2BHW PM85	7FT8(H)	hQSL
061800	4 0.6 275	JE2IDB JK7PUT QM09	7FT8(H) 7SSB(H)	hQSL/W
061800	8 1.2 2032	<...> JA4FDZ R-06	7FT8(H) 7SSB(H)	hQSL
061800	-11 0.7 844	JA2CKF JG6MDN PM52	7FT8(H)	hQSL
061800	2 0.7 2211	JG1NDM JR2DOL 73	7FT8(*) 7SSB(*)	hQSL

図10 メニューバーの[Band(N)]をクリックした状況。[Band(N)]は運用中のバンド[7.041(N)]に変わり、Before欄には7MHz帯で過去に交信したモードとQSL受領状況が表示されている

UTC	dB/DT/Freq	Message	Before	User
115330	-6 -0.0 1003	JJ4Q1A JA1TDM R-14	3.5FT8(26/01/21)	hQSL/V
115330	3 0.0 510	CQ JE3WVJ PM75	3.5FT8(25/01/13)	hQSL/W
115330	11 -0.0 1312	CQ JN7EGV/P PM95	3.5FT8(24/12/20) 3.5SSB(18/01/01)	hQSL/V
115330	-10 0.8 1093	J07EBM JI10WT -02	3.5FT8'26-01-21	hQSL
115400	-2 -0.0 1003	JJ4Q1A JA1TDM 73	3.5FT8(26/01/21)	hQSL/V
115400	16 0.0 1313	JF5VSW JN7EGV/P -03	3.5FT8(24/12/20) 3.5SSB(18/01/01)	hQSL/V
115400	5 0.0 510	CQ JE3WVJ PM75	3.5FT8(25/01/13)	hQSL/W
115400	3 0.8 1093	J07EBM JI10WT RR73	3.5FT8'26-01-21	hQSL
115400	-11 0.0 2079	CQ JK1CWV PM95	3.5FT8(26/01/21)	hQSL
115400	-3 -0.0 1216	CQ JH1ILV PM95	3.5FT8(26/01/12)	hQSL
115430	-5 -0.0 1003	JG1MOU JA1TDM +01	3.5FT8(26/01/21)	hQSL/V
115430	17 0.0 1312	JF5VSW JN7EGV/P RR73	3.5FT8(24/12/20) 3.5SSB(18/01/01)	hQSL/V
115430	6 0.0 510	CQ JE3WVJ PM75	3.5FT8(25/01/13)	hQSL/W

図11 メニューバーの[7.041(N)]をクリックした状況。3.5MHz帯にQSYしたのでメニューは[3.531(N)]に変わり、Before欄には3.5MHz帯の過去の交信年月日とQSL受領状況が表示されている

UTC	dB/DT/Freq	Message	Before	User
##### 7.041 MHz #####				
072815	-8 -0.0 774	CQ JK7MIF QM09	7FT8(25/11/13)	hQSL
072830	0 -0.0 773	JA1XWK <...> -09		
072845	-9 0.0 774	CQ JK7MIF QM09	7FT8(25/11/13)	hQSL
072900	-1 -0.1 773	<JA1XWK> JA7PFI/7 RR73	7FT8'26-01-22 7SSB(25/10/24)	hQSL/V
072915	-7 0.1 774	CQ JK7MIF QM09	7FT8(25/11/13)	hQSL
072930	-2 -0.1 773	PFI/7 07015G		
072945	-8 0.1 774	CQ JK7MIF QM09	7FT8(25/11/13)	hQSL
073000	-1 -0.1 773	PK244 SIMA		
073000	-2 -0.2 773	JK7MIF JA0HNN PM97	7FT8(26/01/18)	hQSL
073015	-7 0.1 774	CQ JK7MIF QM09	7FT8(25/11/13)	hQSL
073030	-1 -0.1 773	JE4NHC <JA7PFI/7> R-07	7FT8'26-01-22 7SSB(25/10/24)	hQSL/V
073100	1 -0.1 773	<JE4NHC> JA7PFI/7 73	7FT8'26-01-22 7SSB(25/10/24)	hQSL/V

図12 メニューバーの[Freq(Q)]をクリックした状況。773Hzでクリックしたのでメニューは[773(Q)]に変わり、773Hz付近で送信している局のみの表示となる

をクリックすると元に戻ります。

図12は、JA7PFI/7局が送信した行を選択している状態で[Freq(Q)]をクリックした状況です。

JA7PFI/7局は773Hzで送信していますので、773Hz付近で送信している局のみの表示となります。メニューの[Freq(Q)]は[773(Q)]に変わります。

この機能は、移動地の市区町村コードやPOTA番号を送出する局がいて、スクロールして見えなくなってしまうので、それがどの局なのか知ることを想定しています。

図12では、JA7PFI/7局の場合は07015G福島県双葉郡浪江町の公園で移動運用していることがわかります。

また、2026年1月22日の7MHz帯FT8での交信はQSL未受領、2025年10月24日の7MHz帯SSBでの交信はQSL受領済みであることもわかります。

(本稿執筆時にはQSL受領済みです。)

結びに

本誌2024年7月号から連載を開始した「Turbo HAMLOGの部屋」ですが、この号を最後といたします。お付き合いいただき有難うございました。

これまでの連載内容を一冊にまとめ、書籍化する予定です。誌面とはまた違った形で、より読みやすく整理する予定ですので、ぜひお手に取っていただけましたら幸いです。

◎◎